

楽しく・感謝 しながら書続ける

新型コロナウイルス感染症の拡大により不安やストレスが増加する中、区内でも誹謗中傷や差別・偏見などの人権侵害が発生しています。

今回は、身近な生活の中から人権を考えるきっかけを見つけたいと考え、日本を代表する書道家・現代アーティストである武田双雲^{たけだそううん}さんにお話を伺いました。そのなかには、たくさんのヒントが詰まっています。

子どもの頃、 先生に怒られる理由が分からなかった

実は僕、良いか悪いか、○か×か、上手か下手か、そういう区別がすごく苦手なんです。子どもの頃から学校の授業で国語と算数が分かれているのがよく分からなくて、誰がどうやって分けたのかな、どうやってみんなは区別しているのかなと思っていました。小学校5年生くらいからは先生と合わなくなって、中学では友だちにも無視されて。先生に怒られてもその理由が分からないから、どんどん萎縮してしまう。だから学校にはついていけなくて、まあそのおかげで高校では宇宙物理学の世界に没頭できたのですが、人と合わないことにすごく劣等感があつたんです。大学生になると少しずつ友だちができました。でも、就職して社会人になってもやはり人間社会が読み込めない。会社にとったら迷惑な人間だったと思いますよ（笑）。

人間に対する好奇心でいっぱい

大人になってから分かったのですが、僕はADHD^{*}らしいんです。そのせいなのか自分の中に時間軸がなく、例えば受験のために勉強するとか、ダイエットのために食事制限するとか、未来のために何かを努力することがずっと理解できなかつた。どうしてみんなは未来という見えないものを目標にできるのか、ずっと不思議でした。僕は今しか生きられない、頑張れないし努力もできない。そんな僕が、こうしたインタビューを受けているのも不思議ですよ（笑）。「武田双雲、今を生きる」みたいな記事があると、いやいや自分は今しか生きられないんですけど、それで良いですかって。僕は何も変わっていないので、時代が変わってきたのかな（笑）。

僕の両親は、僕が勉強したからといって褒めるわけでもなく、人と比べることがなかつた。僕が何をやっても両親は「素晴らしい」「天才だ」と絶賛していましたから、特に期待をされることもなく、良いか悪いかの区別もされない。でも、学校や会社では周りが勝手に期待して、勝手に失望して。僕は人が何を考えているのか分からなかつた。だから知りたくて知りたくて、人間に対する好奇心でいっぱいなんです。

※ ADHD：注意欠如・多動症



武田双雲さんのアトリエにて。はねびよんを肩にのせた双雲さんの背後には「縁」という文字が書かれています。